

CONTENTS

特集
**歯学部
附属病院の魅力**—— 4

新設◎教育課程—— 21
歯学部口腔保健学科
口腔保健工学専攻

医療研究★最前線「未来医療を拓く」—— 22
細胞生理学分野 **水島 昇**教授
生体システム分野 **高谷節雄**教授

卒業生の今「活躍する医科歯科人」—— 26
メモリアル・スローン・ケタリング がんセンター
ナース・プラクティショナー
鈴木美穂氏

医科歯科大生File—— 27
「自ら問い、自ら導く学生たち」
医学部保健衛生学科4年 **吉田幸平**さん

Campus Information—— 28



今号の表紙
東京医科歯科大学歯学部附属病院は、24の専門の外来を設けて、複雑に変化する疾病、多様化する患者ニーズに対応しています。医学部および歯学部附属病院とも綿密に連携しながら、高度な歯科医療を提供。教育病院として、次世代の歯科医療を担う人材育成にも貢献しています。

本学の基本的目標の一つとして「医学・生命科学・医療工学の教育、研究、医療を通じた国際貢献への取り組みを推進する」を掲げております。

2010年12月発行の本誌11号においても、「学生の海外派遣をはじめ、海外拠点の整備・拡充、アジアあるいは世界から優秀な留学生を呼び寄せる積極的な支援などを講じなければならぬ」と、冒頭の挨拶で締めくくらせていただきました。

こうした国際交流事業を推進し、充実していくために、学内では井戸水(医学部および歯学部附属病院はすべて井戸水「お茶の水」の活用、一般管理費の節約などを実施し、財源の捻出のために最大限の努力をしているところがあります。しかしながら、本学が確固たる国際交流戦略を推進していくためには、

さらに安定的な財政基盤が必要になってきます。

このような状況を踏まえ、学内の戦略会議・役員会あるいは経営協議会において、慎重に議論を重ねた結果、他力本願で情けないと批判を受けるかもしれませんが、「東京医科歯科大学基金」を創設し、多くの企業・団体・個人の皆様にご協力をお願いできないかと考えるに至りました。

この基金による事業内容には、当初国際交流事業の推進をと考えて参りましたが、経営協議会などのご意見により、教育・研究環境の整備や学生育英奨学事業などの組み込みなど事業範囲の拡大を含めることに致しました。

なお、日本をはじめ世界経済の不安定、そして世界のあちこちの国が自然災害に見舞われ、世界中の多くの人々が不安の中でさまざまな厳しい状況であることは十分認識しておりますが、東京医科歯科大学のグローバル化の推進や世界の人材の育成のため、格段のご高配を賜りますよう、この場をお借りしてお願い申し上げます。

この度、M&Dタワー2階鈴木章夫記念講堂の東側にある展示スペースに、本学の歴史を綴る写真を展示しました。この展示は、本学の自校愛教育の一環として、「時代の流れ」などを考慮して、テーマを設定しながら行うものです。

今回のテーマは、「写真で綴る東京医科歯科大学「学びの地」」です。今後、「創始者たちの群像」、「教育研究の軌跡」などをテーマとして継続的に展示していきますので、お時間のあるとき、是非ご覧いただきたいと思っております。

地下鉄線を通るシステム

M&Dタワー2階東側の展示スペースには、「写真で綴る東京医科歯科大学「学びの地」」が展示されています。

東京医科歯科大学学長 **大山 喬史**

